

(様式3)

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 1 －
重点項目	学習活動（主体的で深い学びの実現）	
重点課題	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進、改善	
現 状	授業アンケートを参考にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んでいるが、「主体的・対話的」の部分が弱く、積極性に欠けるところがある。今後は、さらに生徒が協働して学ぶことができる環境作りを目指し、より能動的・意欲的に取り組もうとする姿勢を育てる必要がある。	
達成目標	「主体的・対話的で深い学びに関するアンケート項目の質問」において、肯定的回答をすべて80%以上にする。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・全ての教科で公開授業を行い、担当する教科の授業と他教科の授業を見学する機会を設ける。見学者からの感想やアドバイスと教科部会での話し合いを通して情報交換を行い、学校全体の授業改善に努める。</li><li>・「授業・学習に関するアンケート」の「主体的・対話的で深い学び」に関する生徒の回答から、授業分析や改善を行い、授業の質の向上に努める。</li><li>・タブレットを効果的に使用した授業に積極的に取り組み、ICT教育の推進に努める。</li><li>・グループ(ペア)活動にも積極的に取り組み、生徒が協働することでより「対話的で深い学び」の実現を目指す。</li></ul>	

令和7年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 2 －
重点項目	学校生活（規範意識の高揚と自己指導能力の育成）	
重点課題	規範意識の高揚と自己指導能力の育成	
現 状	昨年度、生徒会・校風委員会を中心に、頭髪服装について検討が行われ、規定が変更された。自らが思い描く「高校生像」を生徒たちはしっかり考えており、決して安易な気持ちでの変更ではなかった。 安易な遅刻を繰り返す生徒の割合が10%以下という目標を達成したが、遅刻ギリギリという生徒もかなり見受けられた。余裕をもって登校することで交通事故を防ぐ効果もあることから、一層の指導が必要である。 スマートフォンの使用について、ここ数年継続して重点課題に挙げているものの、なかなか自己目標を達成できていないのが現状で、特に校内での使用に関しては、違反がとても多い。今後も継続して指導することが必要である。	
達成目標	(1)携帯電話の使用に関する自己目標を設定し、それを実行した生徒の割合が70%以上。	(2)交通ルールの順守について、自己評価による「いつもきちんとできている」と答えた割合が80%以上。
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝、学校で会ったら、全職員が、積極的に挨拶をし、服装・頭髪などその場で声掛けを行う等、生徒に規範意識を持たせる。</li><li>・行事等の学校生活の様々な場面で、校則・交通規則、時間を守るなど、意識の向上を図る。</li><li>・校風委員会・生徒会を中心に、自然に挨拶ができる校風をつくる。</li><li>・校風委員会が中心となり、交通ルール・規範意識等について考える機会を設ける。</li><li>・外部講師を招いた講演会を行い、「スマートフォン」の使用について考える機会を設ける。</li></ul>	

令和7年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 3 －
重点項目	進路支援（学習習慣の定着と早期の進路目標の決定）	
重点課題	(1) 学習習慣の習得および定着 (2) 早期の進路目標の設定	
現 状	<p>本校の進路状況は、毎年 20 名以上の国公立大学合格者を輩出する一方で、短期大学や専門学校への進学者もおり、進路は多岐にわたる。また、学習習慣が確立されていないまま入学する生徒の割合が約 18%であり、学年進行に伴い家庭学習を行わない生徒は増加する傾向にあり、受験指導上の課題となっている。学習習慣の習得・定着のため学習記録の作成を指導しているが、昨年度の平均記録日数は学年間に大きな差が見られ、新入生を含む全校生徒への指導の必要性を示唆している。低学年の進路意識に着目すると、将来の職業や大学で学びたい分野の研究を主体的に調べている生徒の割合は、2年生、3年生ともに全国平均を下回る結果となっている。これらの状況を踏まえ、本校においては学習習慣の確立、早期からの進路意識の高揚に向けた全校的な取り組みが喫緊の課題であると言える。</p>	
達成目標	(1) 2学期末の考査期間において、学習記録をつける生徒の割合 80%以上。	(2) 3学期までに 1年生：将来興味のある職業や学問分野が決定している生徒の割合 70%以上。 2年生：志望校または志望学部・学科が決定している生徒の割合 70%以上。
方 策	<p>①進路行事による進路意識と学習意欲の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講話や職業研究会、学部学科研究会および総合的な探究の時間における進路探究などを通して、生徒の進路意識を高める。</li> <li>・考査1週間前から最終日までを学習記録必須期間として全校で取り組み、その記録を学習指導に活用して学習意欲向上を図る。</li> </ul> <p>②進路指導部定例会の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と学年主任が定例会において情報交換・共有を行うことで、各学年の現状に基づいた問題点を明確化し、具体的な対策を協議・実行する。</li> </ul> <p>③進路指導委員会の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導委員会での校外模試の分析を通じて進路指導の課題を明らかにし、その解決のため、学校全体で共通理解に基づいた対策を講じる。</li> </ul>	

令和7年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 4 －
重点項目	特別活動（ボランティア活動への積極的参加）	
重点課題	地域の施設訪問やイベントなどへのボランティア活動に参加して、様々な世代や立場の方と交流し、人間的な成長を図るとともに、地域社会の一員としての自覚を持たせる。	
現 状	<p>本校生徒は、多くの地域の方々に支えられて学習活動や部活動を行っている。特に福祉コースでは、地域の方の理解のもと、社会福祉施設の見学や実習等の体験的な学びを行っている。部活動では、吹奏楽部や郷土芸能部が、地域からの依頼を受けて、演技発表や演奏をする機会が多い。</p> <p>また福祉コースに限らず、地域での学びの機会があり、ボランティアへの参加を希望する生徒が多い。昨年は、活動参加人数は 125 名(全校に対する割合 29.5%)、延べ 312 名がボランティア活動に参加した。</p>	
達成目標	(1) ボランティア参加の延べ人数が、昨年を上回る。	(2) 全校生徒の 1/3 の生徒が、ボランティア活動に参加する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グーグルクラスルームを利用し、多くの情報を生徒に提供する。</li> <li>・グーグルフォームを活用し、ボランティア希望者の集約、配分を行う。</li> <li>・福祉コース以外の生徒にも、ボランティア活動への参加を広く呼びかける。</li> </ul>	

令和7年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		－ 5 －
重点項目	その他（保護者との連携）	
重点課題	P T A研修会への積極的参加	
現 状	<p>本校P T A（井泉会）は、令和5年までの地区別役員選出を見直し、生徒の出身地域の多様化に対応するとともに、活動内容に対して過剰だった役員数も適正化を目指し変更をしてきた。現在は「保護者全員が参加しやすく、負担を分担できる運営」を目指し、新体制で2年目の取り組みを進めている。一方で、総会や研修会の参加率の低下、保護者間の交流不足といった課題もあり、活動の停滞が懸念されている。</p>	
達成目標	(1) P T A主催の研修会への参加者数を昨年度比20%増とする。	(2) 研修会への参加者について「会員同士の交流があった」と回答した割合を80%以上とする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安心安全メール・学年通信、学校ホームページ、役員間のソーシャルネットワークの利用、ポスターなど複数媒体で発信する。</li> <li>・ 保護者が興味関心を抱き、交流が深まる研修内容を企画する。</li> <li>・ 参加しやすい申し込み方法や時期を設定する。</li> </ul>	